

スペシャルオリンピックス ドイツ 第3回ラインラント・プファルツ地域大会参加 報告 卓球

日程 2011年6月6日 月曜日
6月7日 火曜日
6月8日 水曜日

トーチラン 開会式
予選 デビジョニング
決勝 閉会式

場所 ビットブルグ

6月7日	デビジョニング	
グループ1	吉澤清夏	0勝7敗
	福島邦恵	3勝4敗

6月8日 決勝

グループ7	NAME	福島 邦恵		
		1セット	2セット	3セット
7位	Aileenn	11>8	12>10	
	Bourbones	11>7	12>11	
	Hundshammer	11>8	11>2	
	Fischels	11>8	11>9	
	Martina	11>9	9>11	11>7
	Juria	5>11	11>9	11>7

グループ8	NAME	吉澤 清夏		
		1セット	2セット	3セット
4位	Pethovic	11>7	12>10	
	Gabi	11>8	11>6	
	Jessica	13>11	11>9	
	Monika	2>11	1>11	
	Andrea	8>11	7>11	

感想

デビジョニングの初日は ドイツの人全員が身体が大きく 年齢が上に見え 二人ともものすごく緊張の顔。会場でもいつ練習していいかも分からなくて練習もほとんどできず、二人とも黙ったままでした。二人とも同じチームで最初はたがいに対戦、その後各アスリートと対戦し常にリラックスと声かけをしながらも審判員もドイツ語 注意をするのもカウントもドイツ語で行われ 私やファミリーは「うん？今何て言った？」といった 感じだったが二人のアスリートは動じることなどなく マイペースで対戦していた。

二日目 決勝 チームが二つに分かれ、本番。

福島さんは 負けてくると矢張り緊張は隠せなかったが でもリラックス 楽しくやろう ジャンプして楽にとの声かけに 顔色もよくマイペースで試合をすすめていき頑張った。

MartinaさんとJuriaさんの試合では3戦まで持って行けたがおしかった。

特にMartinaさんと試合では 相手が2セット目の半ばで転び痛い痛いと言いながらやられ、時々足を引かずつたりの 大きなアクションに福島さんはかわいそうだからと 遠慮がちに対戦し負けてしまった。

吉澤さんは常にニコニコしながら対戦し、相手は大ぶりのロング打ちのアスリートばかりで、吉澤さんのバックでの常に返すふわとした対戦に戸惑っていたようで、いつものようにひとり言をいいながらリラックス。お母さんの話では 常にニコニコしながら楽しそうに対戦したのは今までいろいろ試合に出たがこんなことはなかったとのこと。異国でリラックスとは凄い事・・・よかった

二人ともよい経験と対戦をさせてもらえたように思う。

一番は日本の礼儀正しさ、対戦前にあいさつし 審判員に握手、対戦者に握手、試合後も握手、挨拶と最初相手も戸惑っていたが、だんだんと毎回皆がしてくれるようになり、ほめられた。

試合終了後、ドイツの審判員から二人に卓球のアドバイスを貰い、また対戦チームに試合後プレゼントを渡したり写真をお願いしたりすると快くハグをしたり腕を組んで写真を撮ったりと、楽しい思い出を作れて二人とも緊張の顔と違いニコニコしていたので、何よりでした。

感想として、地域大会だからルールがアスリートに優しい、そして年齢層の高い(60歳以上)人も多かった。

表彰式では日本の万歳の代わりに 音楽に合わせ手を大きく横に振ります。

これもいいかな～と その音楽のCDを貰うことができて是非埼玉大会で利用しようかと思っています。

開会式、閉会式も地域の知的発達障害者の団体のダンスやら体操、ロックバンドの演奏、太鼓の演奏、合唱様々な人の演技を見せてくれた。有名なサッカー選手や、聴覚障害の有名なダンサーの演技など観る時間が多く、楽しませてもらえた。皆でよい経験をさせてくれたことに 心より感謝です。

今川 敦美